

部 会 報 告

第 21 回 機電技術者意見交換会報告

建設業部会 機電技術者交流企画 WG

1. はじめに

当協会の業種別部会に属する建設業部会（建設業 54 社の会員会社で構成）は、会員相互の共通課題をテーマに取り上げ、事業活動を行っている。

これまで、時代の要求や業界の状況を反映し、様々な事業活動が実施されてきたが、特に建設の生産性向上と品質確保および環境保全といった業界普遍のテーマに取り組むための『人づくり』『場づくり』の企画は当部会の大きな柱となっている。

機電技術者意見交換会は、平成 9 年より昨年まで 20 回開催されてきているが、第 16 回（平成 24 年）からは、当部会の中に「機電技術者交流企画 WG」を設置し、開催意義を再検討するとともに、機電技術者のさらなる育成交流に資する活動として、討議テーマ、グループ編成、講演内容および PR 活動等の検討を行っている。

今年度は第 21 回目となり、昨年の反省を踏まえるとともに、新たな取組を盛り込み、開催された。（※詳細報告は協会ホームページ内：建設業部会の中に過去分を含め、報告書として掲載されているので確認していただきたい。）

2. 第 21 回機電技術者意見交換会

(1) 概 要

①機電技術者意見交換会参加者の選出基準

30～40歳前後の機電技術者(グループ会社も含む)

②開催日時

平成 29 年 10 月 16 日（月）～17 日（火）

③場所

国立オリンピック記念青少年総合センター

④討議テーマ

「将来を見据え、生産性向上をはかるために機電技術者として何を開発するか」

⑤講演

演題：スマートインフラマネジメントシステム
『i-DREAMs』

講師：首都高速道路(株)保全交通部

保全企画課課長：永田佳文 様

⑥スケジュール

1 日目（10 月 16 日）

10：30～11：00 参加者受付

11：00～11：30 オリエンテーション

12：30～13：45 自己紹介（自己アピール PPT 使用）

14：00～15：30 グループ討議（班編成：工種）

15：30～17：00 グループ討議（班編成：平均年齢）

17：30～ 懇親会

2 日目（10 月 17 日）

8：30～9：30 グループ討議(班編成:同世代)

9：30～12：00 グループ討議（班編成：工種）
討議成果のまとめおよび発表準備

13：10～15：15 グループ討議成果発表会

15：30～16：15 講演

16：15～17：00 講評

17：00 閉会

(2) 参加者および班編成

参加者はゼネコン、海洋系、道路系、会員のグループ会社から 25 社 25 名であった。

班編成は、一昨年から実施している班編成メンバーを 2 回入れ替えるシャッフル方式が好評であったことから、それを継続実行した。工種別を基本班として、1 日目は平均年齢が各班同一となるような構成、2 日目は年齢が同世代となるような構成にシャッフルした。なお、いずれも工種が重ならないように配慮した。基本班の班編成を表 1 に示す。

表 1 班編成（基本班）

	班編成	人数	平均年齢
1 班	技術開発系	5	34
2 班	土木系	5	34
3 班	土木系	5	33
4 班	道路・土木系	5	33
5 班	海洋・建築系	5	34

(3) グループ討議および成果発表

「将来を見据え、生産性向上をはかるために機電技術者として何を開発するか」という討議テーマのもとに、前述の班編成で討議を行った（写真—1）。

各班とも建設業界で問題となっている「安全」「生産性向上」「担い手確保」をテーマに掲げ、ICT、AIを活用した解決策を討議していた。ドローンを使ったユニークなアイデアもあり、活発な討議が行われていた。各班の成果発表シートを図—1～5に示す。



写真—1 グループ討議

第21回機電技術者意見交換会

テーマ：「将来を見据え、生産向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか」

成果発表
【第1班】

平成29年10月16日(月)～17日(火)
場所：(独)オリンピック記念青少年総合センター
主催：(一社)日本建設機械施工協会 建設業部会

第1班 討議メンバー

No	氏名	所属会社	所属部署
1	早川佳吾	オリエンタル白石(株)	本社技術本部技術部機電チーム
2	井上大輔	東急建設(株)	技術研究所メカトログループ
3	上原広行	株フジタ	建設本部土木エンジニアリングセンター機械部
4	桑田直人	鹿島道路(株)	生産技術本部ICT施工推進室
5	西田吉宏	鹿島建設(株)	機械部技術1グループ

1班で設定したテーマ
安全×生産性向上

||
工事を止めない
人命を大切に

現場の危険項目

問題点	解決策
崩落	切羽周辺の無人化
接触	自動運転
巻き込まれ	センサによる機械停止
酸欠	センサによる自動通報
熱中症	空調服、バイタルセンシング、日傘ドローン
転落・墜落	ドローンで親綱張り、点検、墜落防止ネット
転倒	カウンターウェイトの自動制御
物損	吊り荷の振れ制御
感電	クレーンのワイヤー絶縁

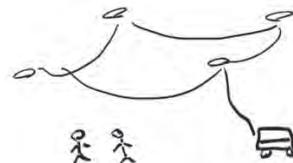
熱中症対策：日傘ドローン 個人用



危ない？
→ プロベラガード

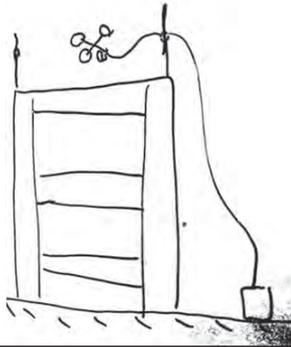
熱中症対策：日傘ドローン

風にあおられる？
→ 網にする

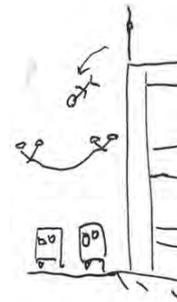


図—1a 成果発表（1班）

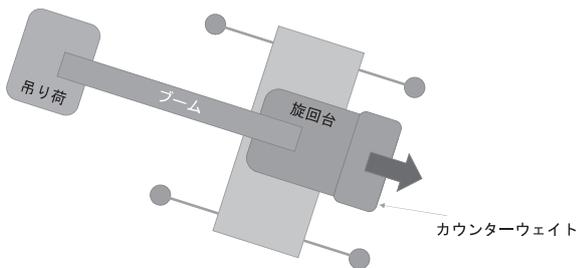
墜落対策：ドローンで親綱



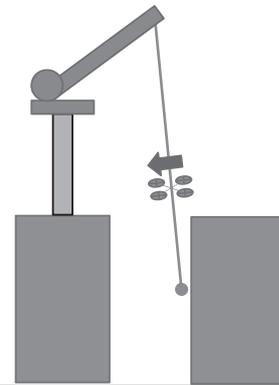
墜落対策：ドローン水平ネット



クレーン転倒対策：ウェイトが移動



荷ぶれによる物損対策：ドローン？



まとめと課題

- 安全対策と作業効率のバランス
 - 安全装置を無効化してしまう
 - ✓ 無効化できないようにする
 - ✓ 無効化を通報
- 費用対効果
 - 国からの補助を期待

安全第一

最後に

安全への投資は、1社だけでは
やりきれません

協会のご支援をお願いします！

第21回機電技術者意見交換会

テーマ:「将来を見据え、生産向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか」

成果発表

【第2班】

平成29年10月16日(月)~17日(火)
 場所:(独)オリンピック記念青少年総合センター
 主催:(一社)日本建設機械施工協会 建設業部会

第2班 討議メンバー

氏名	所属	所属部署
1 千野 雅紀	株式会社 橋安藤・間	土木事業本部 先端技術開発室
2 中村 亮太	佐藤工業株式会社	九州幹線平山第1トンネル作業所
3 古川 瞬	大豊建設株式会社	中央機材センター 機電部
4 鈴木 幸英	西松建設株式会社	関東土木支社南巨摩出張所
5 平田 健	新潟池組	機材センター 機電課

土木系
シールド・トンネル

自己紹介でのテーマについて話したい内容

- 手軽にできる配線
 - データ通信の無線化
 - ・ トラブルの見え易化
 - ・ 中央での監視
- 建設機械の耐久性向上、修理のしやすさ
 - ニューマチックケーン(圧気環境)
 - ・ 交換を前提とするなら計画の段階
 - ・ 強固にして巨大化すると作業場に下ろせない
 - ・ 建設機械のAI化(異常箇所の自動検知)
 - ・ 壊れにくい、修理しやすい建設機械
 - ・ 機械に負荷をかけない構造・システム(出力の制限・制御)
 - ・ 遠隔操作の負荷感のオペへの伝達
 - ・ 自動化施工に対応した人材育成

自己紹介でのテーマについて話したい内容

- 高所作業のない現場
 - 構造物のPC化
- 重機の自動化
 - 吹き付けの自動化(数値管理、施工と材料管理、AIとの連携)
- 作業員の負担減
 - AIの利用、遠隔操作、自動化、耐久性向上

テーマ:「将来を見据え、生産向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか」

- 問題点
 1. 熟練者数の減少
 - 品質の低下
 - 若手人材の育成不足
 2. 若手の経験不足
 - 経験不足による事故の増加
 - 機械・材料の破損・故障
 - 機械作業の効率の低下

人が少なくなる中で同じ品質を保つ

- 人力部分を補助する機械(パワードスーツなど)
- 経験をデータ化して機械に教える
- 誰でもできる施工方法
- 仕様・材料の標準化
- 現場での作業を少なくする

↓

経験不足を補う機械・システム

経験不足を補う機械・システムの開発

- 操作を補助する重機の自動化
 - ドリルジャンボのロッドのトルク管理、装薬の機械化
 - 吹き付け機のトンネルパターンによる吹き付け量・急結材・吹き付け厚の管理
 - 支保工の自動建て込みシステム
- 経験のデータ化(作業員の経験に基づく判断)
 - 吹き付け量
 - 地山パターン(前方探査データも含む)
 - 削孔パターン

人が少なくなる中で同じ品質を保つ

- 自動化すると職員負担が大きくなるのでは
- 人力部分を補助する機械(パワードスーツなど)
- 暗黙知をデータ化して機械に教える
- 誰でもできる施工方法
- 仕様・材料の標準化
- 現場での作業を少なくする
- 坑門のPC化
- 働き方を覚える
- 多能工ではなく専門職を業めるよう体制を変える
- 業務をしない拘束時間が長い(付き合い残業による生産性の低下)
- 移動手段が限られ、全員が一緒に働らざるをえない
- 業務時間外の連絡の禁止をルール化する
- 書類のデータ化、電子納品可能なシステム

図-2 成果発表(2班)

テンプレート

第21回機電技術者意見交換会

テーマ：「将来を見据え、生産向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか」

成果発表

【第3班】 濁水処理の自動化

平成29年10月16日（月）～17日（火）
 場所：（独）オリンピック記念青少年総合センター
 主催：（一社）日本建設機械施工協会 建設業部会

第3班 討議メンバー

No	氏名	所属会社	所属部署
①	小川 陽	鉄建建設(株)	札幌支店 昆布トンネル作業所
②	三田 隆義	大成建設(株)	土木本部 機械部 機械設計
③	坪田 裕之	(株)大本組	土木本部 機械課
④	古田 哲郎	前田建設(株)	東北支店
⑤	富塚 真行	SMCテック(株)	土木本部事業部

問題点

- 1、配管内にスケールが溜まり、排水に不具合
（現場ストップ）
→清掃作業が大変
- 2、フィルターの清掃作業が大変
→フィルタープレスは自動だが、清掃は自動ではない

- 3、異常時間わず、機電屋が対応
→労働時間
→現場ストップ
- 4、添加量調整は自動ではない
→経験による対応
常時、原水性状が変化し、対応が困難

現地での異常発覚

濁水処理の自動化

- 1、仮設備
→配管内のスケール自動撤去（セメント分）
→フィルタープレス（ろ布、洗浄機能の自動化）
- 2、異常時の対応
→警報システム
- 3、薬品の添加量調整
→吐出量調整の自動化

自動化するには

- 1、仮設備
 - ・配管内部玉送り機能
 - ・配管超音波洗浄機能
 - ・配管内部「つまり」の見える化（例、配管の透明化）
 - ・フィルタープレスろ布自動高圧洗浄化
 - ・フィルタープレス超音波洗浄化

図一 3a 成果発表（3班）

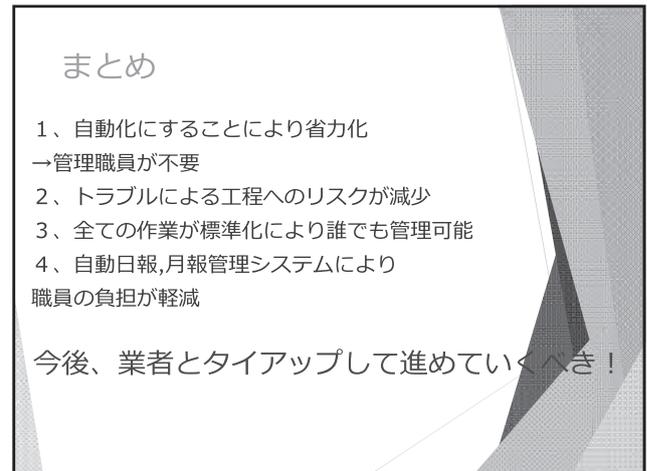
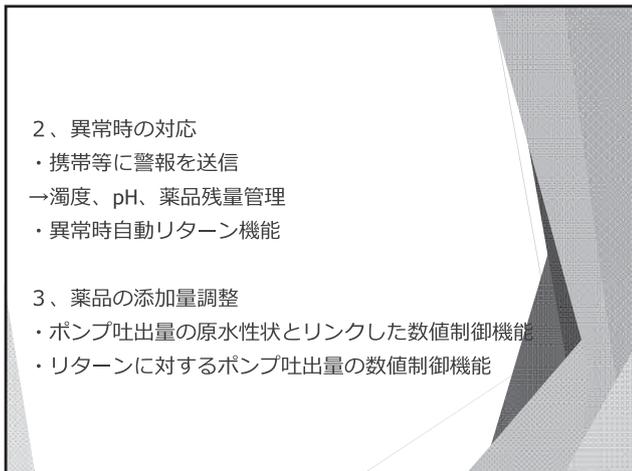


図-3b 成果発表 (3班)

テンプレート

第21回機電技術者意見交換会

テーマ:「将来を見据え、生産向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか」

成果発表 【第4班】

平成29年10月16日(月)～17日(火)
場所: (独)オリンピック記念青少年総合センター
主催: (一社)日本建設機械施工協会 建設業部会

第4班 討議メンバー

No	氏名	所属会社	所属部署
16	池田 恭平	大林運路(株)	機械部 機械課
17	一ノ瀬 裕介	日本国土開発(株)	土木事業本部機電部
18	白崎 耕平	清水建設(株)	ハッ橋ダム本体建設工事
19	内本 隆介	(株)奥村組	西日本支社土木事業担当 阪神福田工事所
20	石山 廣司	(株)NIPPO	北海道支店 舗装事業部 工事G



①施工管理について

<問題点>

- ・労働時間が長い
⇒機電技術者は、現場運営+機械点検・メンテナンス
- ・人手不足
⇒機電技術者の人数が、土木・建築に比べて少ない

①施工管理について

<今後の目標>

- ・自動化の推進
⇒全て自動化にすることはトラブルが多く、負担も大きくなる
- ⇒段階を踏んで自動化する

機械化⇒省人化⇒無人化⇒自立化(但し、新しい技術者が育たなくなる新たな問題点も...)

②品質・環境・安全等管理について

<問題点>

- ・作業員によって機械を運転する技量にバラつきがある(品質)
⇒舗装作業において経験、感覚による作業が多い
- ・重機の重大災害が多い(安全)
⇒建設機械周辺に手元となる作業員が多い

②品質・環境・安全等管理について

<今後の目標>

- ・技量を数値化する⇒自動化(品質)
- ・安全装置の導入(生産性が下がるというデメリットも... (安全))

③技術開発について

- ・機械化による人力作業(重量作業、危険作業)の軽減
- ・新技術に対する啓蒙活動
- ・生産性とコストのバランスを考慮した開発(今の現場状況、受け入れ体制に見合ったもの)

図-4 成果発表(4班)

将来を見据え、生産性向上をはかるために、
機電技術者として何を開発するか？

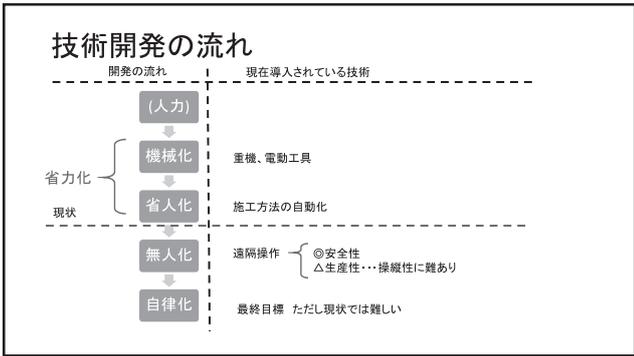
5班

五洋建設㈱	森 雅宏
㈱大林組	池田 伸幸
東洋建設㈱	瀬頭 孝太
東亜建設工業㈱	那須野 陽平
㈱竹中工務店	長谷川 祐

将来を見据え、生産性向上をはかるために、機電技術者として何を開発するか？

- 10年後
 - ①土木作業員 → 減少
 - ②技術開発の進展(思いもよらない技術が出る?)
 - ③都市集中
 - 高層化、リニューアル工事の増加
 - ④海外(中東アジア、アフリカ)
 - 大型案件

生産性向上 → 省力化に焦点



参考

パワーアシストツール

無人化施工

<http://www.yuasa.co.jp/assistsuit/>
UPR株式会社

<https://mainichi.jp/articles/20170129/ddm/08/020/119000c>
毎日新聞デジタル

省力化に向けて

現場

- パワーアシストツール → 作業員補助
- 計測システム → 作業効率向上

管理

- 計測記録等の簡易入力システム、共有化システム
 - 事務作業の時間削減

今後機電技術者として必要なこと

- 土木技術のノウハウ&技術導入の背景を理解する
- 機械、電気の知識を勉強、習得する
- 最新技術の情報収集を行う

図一5 成果発表 (5班)

成果発表は、班メンバーが壇上に整列した後、代表者から成果を発表する方法で進めた。その後、2年前から実施している参加者全員が発言するという機電技術者交流企画WGの基本方針に基づき、参加者一人ひとりに討議内容および意見交換会へ参加した感想等について発表してもらう時間を設けた(写真一2)。

(4) 講評

成果発表後、各社の上司の方々から全体を通した講評を頂いたので、抜粋を以下に示す。

- 各班、真剣に討議していただき、確実な成果を得られたと感じます。特に討議成果を短時間で図示して



写真一2 成果発表

内容を解りやすくし、質問を受けやすくした方法はとても良く感じた。

- ・内容も多彩で将来的に実現しそうなアイデアもたくさんあった。各人、実用化に向け努力して欲しい。
- ・発想がすばらしく、機電職の将来も安泰と感じました。特許が取れそうなアイデアもあり、持ち帰って業務に生かして欲しい。
- ・みなさん非常に恵まれた時代にいると思う。i-ConstructionやICT等まさに機電職の出番が来たという時期にいるのではないのでしょうか。
- ・発表の中で生産性向上だけでなく安全性も考えているのは非常に良いことだと思う。メーカーは利益にならない部分はなかなか開発してくれない。やはり、ユーザーが開発しなくてはならない。その意味でも建設会社の中に機電系技術者が必要と考える。
- ・機電技術者の立場も土木系や建築系があるが、少数精鋭でやっていくためには発信し続けることが重要。その発信方法としては、特許を出す、論文を書く、あるいは新聞発表をする、講演会をする等いろいろある。自身の部署をアピールすることが必要になるかと思う。この会については建設業界3紙に明日掲載される。本日、みなさんをお願いしたいことは、その記事のコピーを付けて、この様な会があるということを社内展開していただきたいということです。

(5) 参加者アンケート解析結果

当部会では、意見交換会の反省や次年度への検討課題の把握等を目的として参加者へのアンケートを毎回実施している。以下に解析結果の概要を示すとともに、集計結果抜粋を表一2～6に示す。

(a) テーマ、進め方、発表方法、交流について

テーマについては「不満・改善を要す」という回答が12%あったことから、やや話しづらい内容であったかもしれない。アンケートからは、「テーマが広く、討議が限定されないので議論に広がりが出る」という意見がある一方、「興味深いテーマではあるが漠然としている」という意見もあり、二分化の状態である。次年度は複数のテーマ設定等も踏まえ、検討していきたい。

シャッフルについては、「多業種の人間と意見交換が出来、有意義であった」「他職種および年代別での討議は新鮮であった」等、好評であり、今後も継続していきたい。

進め方については「不満・改善を要す」という回答が8%あったが、特に大きな問題は無かったと考える。

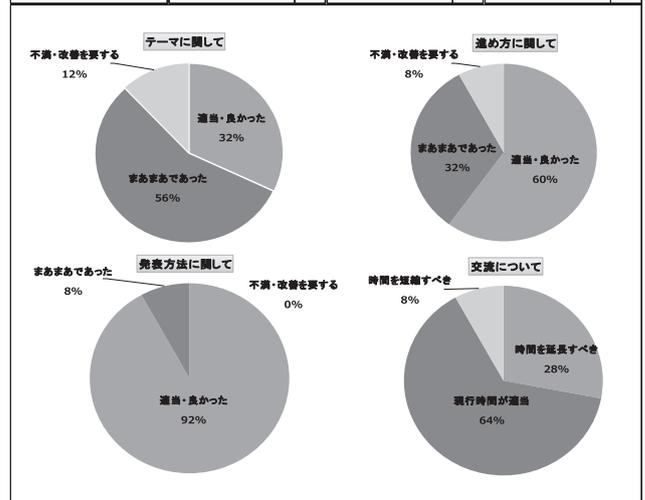
ただ、「討議時間が少なかった」「グループ討議のスムーズな進行のために、リーダー役および発表者の事前決定をすべきだ」等の意見があり、次年度の参考とした。

発表方法については、昨年度のアンケート結果を踏まえ、パワーポイントを再採用したが、討議に影響が出ることは無く、今後も継続使用したい。ただ、パワーポイントの不得意の班もあり、ホワイトボードの写真撮影との併用使用も検討すべきと考える。

本会の主目的でもある機電技術者の交流については、シャッフルの時間について時間延長を希望する意見が多かった。現状、2日間での討議時間6.5時間の内、2.5時間をシャッフルの時間に割り当てているが、配分については来年度の課題としたい。

表一2 テーマ、進め方、発表方法、交流について

(1) テーマに関して	適当・良かった	8	まあまあであった	14	不満・改善を要する	3
(2) 進め方に関して	適当・良かった	15	まあまあであった	8	不満・改善を要する	2
(3) PPを使用した発表方法に関して	適当・良かった	23	まあまあであった	2	不満・改善を要する	0
(4) 他の班・メカ-変更による交流について(3回分)	現行より時間を延長すべき	7	現行時間が適当である	16	討議内容が狭くなるので、現行より時間を短縮すべき	2



(b) 参加者、場所、期間について

参加者に関しては「不満・改善を要す」という回答は無かったが、「道路会社を増やして欲しい」との意見があり、今回は道路系、海洋系の参加者が少なかったことから、来年度は案内時期の前倒し等で職種系統のバランスを図りたい。

場所に関しても「不満・改善を要す」という回答は無かったが、遠方からの参加者からは「前泊が必要となる場合の対応を案内して欲しい」という意見もあり、来年度は宿泊施設(D棟)への前泊予約も検討したい。

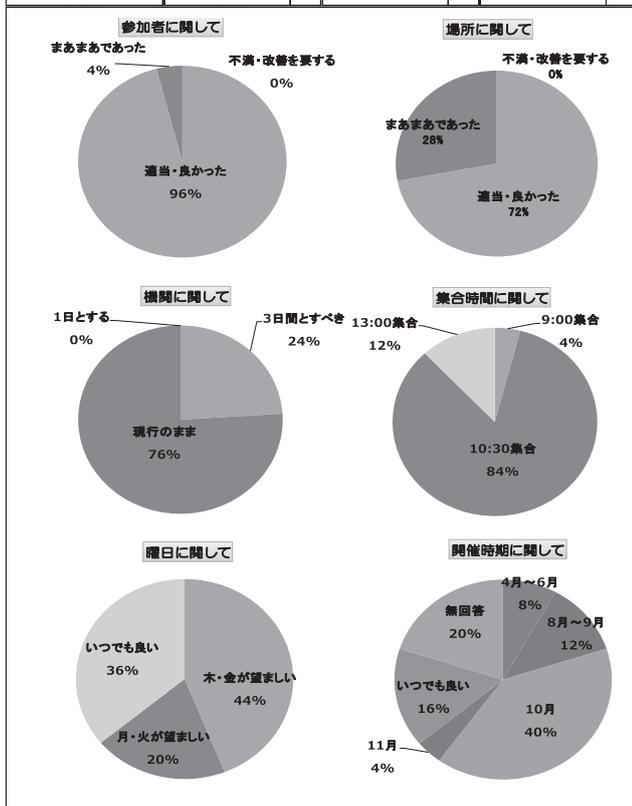
期間、集合時刻については概ね適当という回答であったが、「3日間」を希望する方が24%いることから、現場見学と併せた長期の研修等も検討すべきかと思われる。

開催時期に関しては、概ね現状で良いようだが、5月の連休明けおよび夏季休暇明けを望む声もある。曜日に関しては「月・火が望ましい：20%」に対し、「木・金が望ましい：44%」と週末を希望する意見が多い。施設予約の関係から今年は「月・火」開催としたが、出来れば週末開催となるように施設予約時に調整したい。

業務上の支障については、ほとんどが事前調整でき、支障はなかったという意見ではあるが、「現場での業務調整が大変であった」という意見もあることから、通知時期の更なる早期化等を検討したい。

表一三 参加者、場所、期間、集合時刻について

(1) 参加者に関して	適当・良かった	24	まあまあであった	1	不満・改善を要する	0
(2) 場所に関して	適当・良かった	18	まあまあであった	7	不満・改善を要する	0
(3) 期間に関して	3日間とすべき	6	現行のままとする	19	1日とし宿泊をなくす	0
(4) 集合時刻に関して	9:00集合	1	10:30集合	21	13:00集合	3
(5) 曜日に関して	木・金曜日	11	月・火曜日	5	いつでも良い	9
(6) 時期に関して	開催時期					



(c) 参加した感想

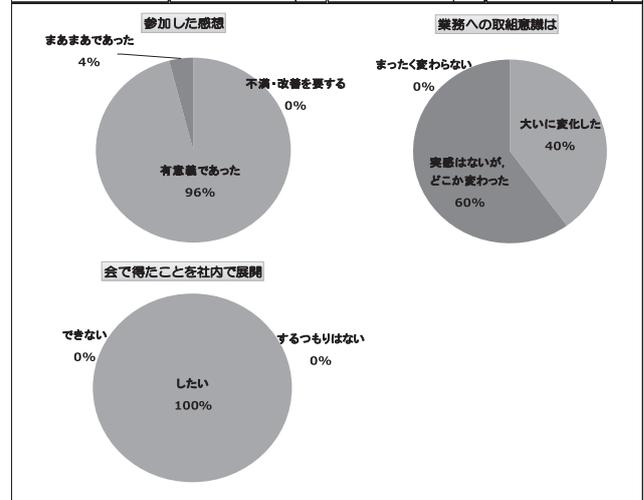
感想欄の回答からは「有意義であった：96%」「まあまあであった：4%」「不満・改善を要す：0%」という回答を得たことから交流会は成功と考えたい。

特に、「会で得たことを社内で展開するか」という問いに対しては、100%の方が「展開したい」と回答してくれたことは本WGの本望でもあり、非常にうれしい限りである。

主な意見として、「将来へ向けて意見を述べることで業務において意欲が湧いてきた」「自分の経験した

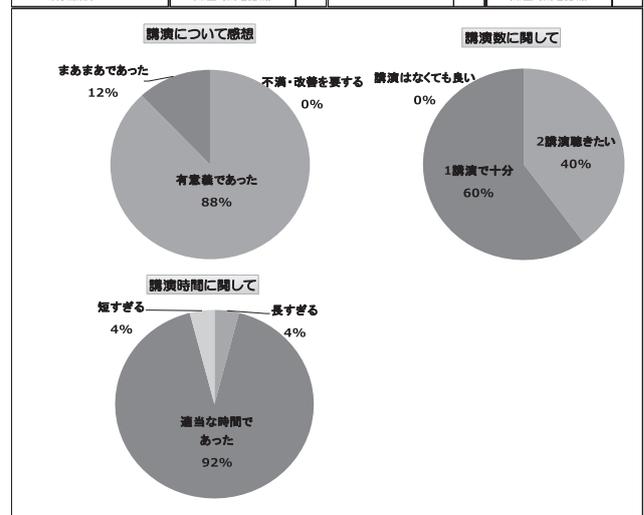
表一四 参加した感想

(1) 感想	有意義であった	24	まあまあであった	1	不満・改善を要する	0
(2) 参加前後で、業務への取組意識は変化したか	大いに化した	10	実感はないが、どこか変わった	15	まったく変わらない	0
(3) この会で得たことを社内で展開するか	したい	25	するつもりはない	0	できない	0



表一五 講演について

(1) 感想・希望等	有意義であった	22	まあまあであった	3	不満・改善を要する	0
(2) 公演数に関して	2講演（以上）聞きたい	10	1講演で十分であった	15	講演はなくても良い	0
(3) 講演時間に関して	長すぎる（希望時間を記載）	1	適当な時間であった	23	短すぎる（希望時間を記載）	1



ことの無い分野の方と話すことで、広い視野を持つ事が出来た」「新しい繋がりができ、今後の業務に活かせる。若手にも勧めたい有意義な場であった」等があり、今後も意見交換会を継続する必要があることを再認識した。

(d) 講演について

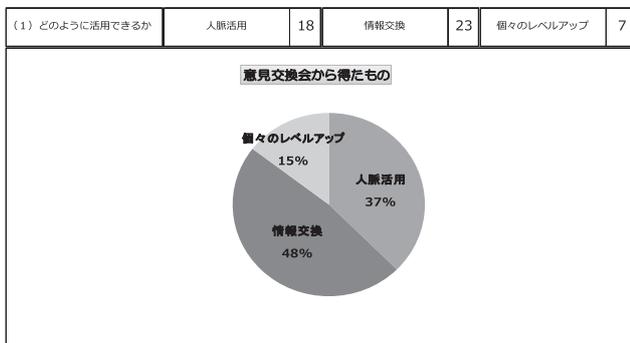
講演に関しては機電技術者として興味の湧く講演内容であったと考える。時間的にも「適当な時間であった」という方が92%であり、今後も1時間弱の講演時間を確保して進めたい。ただ、2講演を望む方も40%いることから、時間調整が可能な工程を組む際は検討課題としたい。

今後も、機電技術者が興味を持つ話題を提供したい。
(e) 今回の意見交換会から得たもの

今回の経験をどのように活用して行くかという問いに対しては、「人脈活用:37%」「情報交換:48%」「個々のレベルアップ15%」という回答を得ており、各人それぞれ刺激を受け、良い経験となったようだ。

その他の意見としても「経験から固定観念が強くなって来るが、色々な意見、考え方を聞く事ができ、新たな発想が湧いてくる気がする」「技術的な話題もすべてが新鮮で今後の自分に良い刺激になった」等の意見があり、精神的にも有意義な場を提供できたと考える。

表一六 意見交換会から得たもの



(6) 今年度の成果および次年度への課題

意見交換会へ参加しての感想は、「有意義であった:96%」「まあまあであった:4%」「不満・改善を要す:0%」ということで開催内容について大きな問題は無く、意見交換会の目的である「機電技術者の交流・育成に資する場づくり」を達成したと考える。

各人の感想も「刺激になった」「新たな発想が湧いてくる気がする」等、意見交換会が有意義だったという意見を多くもらった。特にシャッフルについては、「討議が活性化され、議論が深まった」「他業種の人間と新鮮な討議ができた」等の高評価の意見が多く、今後も継続するとともに、時間延長を希望する意見が多いことから時間配分について再検討していきたい。

なお、今年度は講演時間の都合で講演を成果発表の後に実施した。昨年までは講演の後に成果発表を行うスケジュールであり、「講演をゆっくりと聴けない」という意見もあったことから、この順序については継続していきたい。

「業務への取組意識が変化したか」という問いに対して、「大いに変化した」という回答は40%と、あまり高くない数値であった。昨年度も41%であったこ

とから、現状内容の見直しを検討する時期かもしれない。

意見交換会、講演会の他に新たな内容を追加検討することを考慮したい。

討議テーマについては、「テーマが広い方が色々な意見が出やすい」という意見と「漠然としていて内容を絞りにくい」という意見があり、二分化の状態である。次年度はテーマ内容を再検討するほか複数のテーマ設定等も踏まえ、検討したい。

発表方法については昨年度のアンケート結果を踏まえ、パワーポイントを再採用したが、討議に影響が出ることは無く、今後も継続使用したい。ただ、パワーポイントの不得意の班もあり、ホワイトボードの写真撮影との併用使用も検討すべきと考える。また、「データ移行用のUSBメモリーを用意して欲しかった」という意見があったことから、来年度は対応したい。

参加者に関しては、今年は道路系、海洋系の参加者が少なかったことから、来年度は案内時期の前倒し等で職種系統のバランスを図りたい。

開催曜日に関しては施設予約の関係から今年は「月・火」開催としたが、週末を望む声が多いことから、出来れば週末開催となるように施設予約時に調整したいが、予約する施設数が多いことから難しい面もある。

講演に関しては、内容についての不満は聞かれず、また、1時間弱の時間配分についても適当であったという意見が多かった。ただ、2講演を望む方も40%いることから、来年度は全体の時間配分を再考慮して、可能であれば2講演を実施したい。

新聞掲載については、昨年同様、業界紙3社に取材依頼をし、掲載していただいた。今後も取材依頼は継続するとともに、「記事にしやすい内容、方策」を検討し、協会の活動をアピールして行きたい。

3. おわりに

機電技術者交流企画WGでは3ヶ年毎に計画の達成度を確認するとともに活動内容の評価を行い、継続性を協議することとなっている。今年度は見直しの時期にあたり、活動総括を行うが、機電技術者意見交換会については、『人づくり』『場づくり』に寄与していることは明らかであり、是非とも今後も継続させたい。

(文責 機電技術者交流企画WG)